

令和6年3月

保護者、地域の皆様

仙台市立錦ヶ丘小学校

校長 高橋 和之

令和5年度 「協働型学校評価」の自己評価と 「学校教育目標」に関するアンケート結果等について

日頃から、保護者の皆様、地域の皆様には、本校の教育活動に対しまして、深い御理解と温かい御支援を賜り、厚く感謝申し上げます。学校評価につきまして、アンケートに御協力いただき、誠にありがとうございました。過日、開かれました学校運営協議会において、アンケート結果や令和6年度の学校運営について報告しましたので、下記の通りお知らせします。

なお、保護者の皆様の自己評価の過程で頂戴しました御意見等につきましても、参考資料として掲載しました。教職員一同真摯に受け止め、新年度の計画立案や学校運営に活かしてまいります。

記

1 今年度の協働型学校評価の重点目標

学校教育目標 たくましく しなやかに生きる 子ども

協働型学校評価の重点目標 探究し考えを発信する学びを支えるための教育活動の推進
～温かいコミュニケーションができる力の育成～

学校における取組

- ・児童一人一人の目標や学級目標を明確にし、可視化や振り返りの充実を図る。
- ・相手意識を持つことができるような場面を意図的に設定する。
(異学年交流や体験学習の推進)
- ・多様な見方や考え方があることを捉えられるような探究学習を推進する。
(対話を重視した授業づくり)

家庭における取組

- ・子供との会話の時間を確保し、会話を楽しむ。
- ・学校から持ち帰った Chromeboo を活用し、家庭学習においても、探究的な学びを家庭でも行えるよう支える。

地域における取組

- ・学校及び地域の活動や行事等において、子供たちと積極的に関わっていただく。
(学校支援地域本部等の活用)
- ・地域の人材や資源等(ゲストティーチャーの活用)を生かした探究活動を支えていただいたり、学習成果の発信の際に協力していただいたりする。

2 「協働型学校評価の重点目標」に対する学校の自己評価結果

協働型学校評価の重点目標 探究し考えを発信する学びを支えるための教育活動の推進

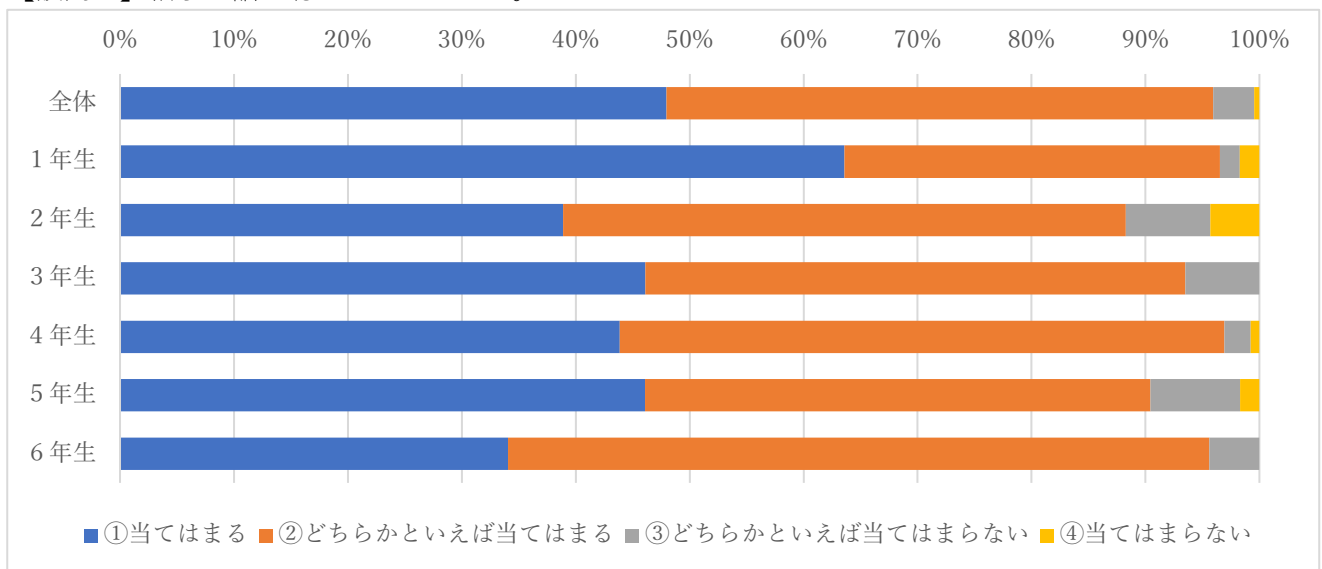
～温かいコミュニケーションができる力の育成～

対話（聴く・話す・かかわる）は、温かいコミュニケーションができる力の土台となる部分だと考えています。学校では、異学年交流や協働的な学び等、人との関わりを通して、聴いたり話したりする力を育ててきました。また、挨拶や優しい言葉遣いにも力を入れて指導してきました。

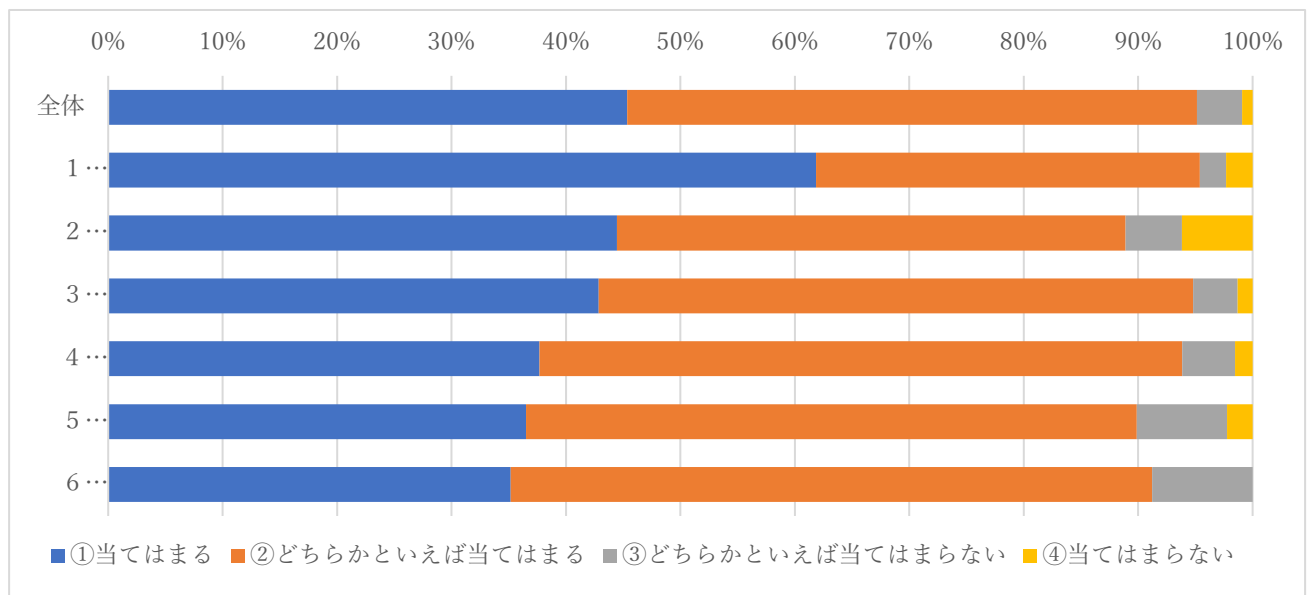
アンケート結果から、子供たちは、相手意識を持ち、対話を通して人と関わろうとしている様子うかがえました。来年度も、引き続き、探究的な学習や体験活動などを通じて、子供同士で、あるいは地域の方々等と関わりながら、温かいコミュニケーションの力を育てていきたいと考えています。

令和5年度 学校評価アンケート集計結果（児童自己評価 回答863件）

【設問1】相手の話を聴くことができる。



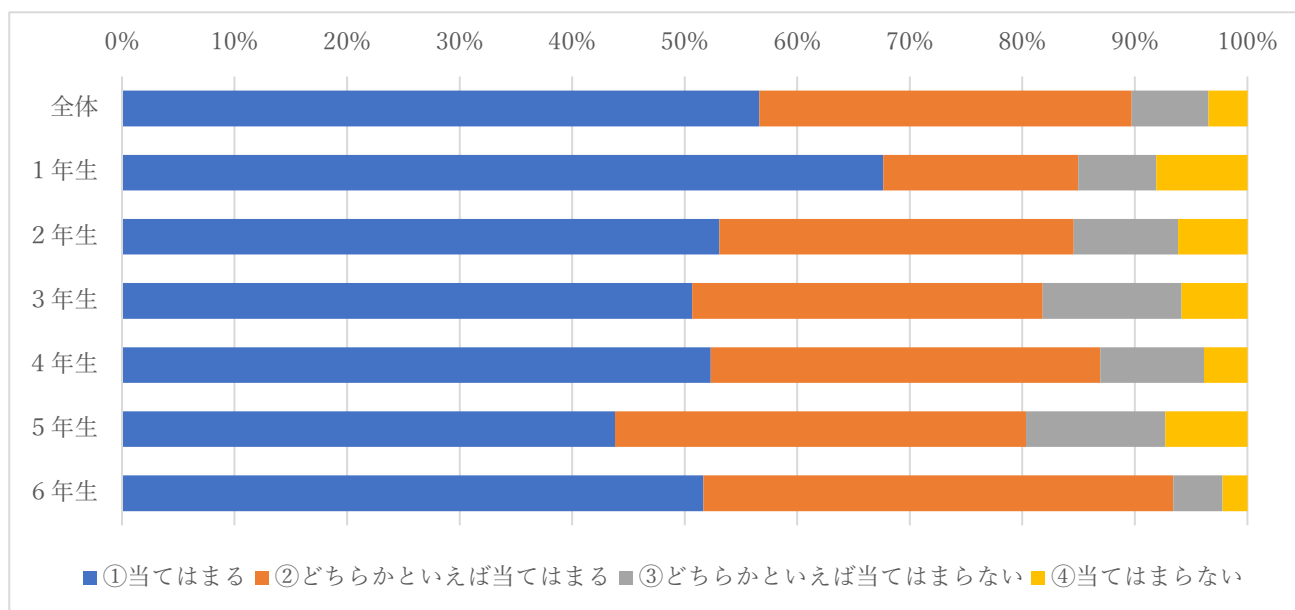
【設問2】相手のことを考えて話すことができる。



保護者アンケートと同様に、平均すると約9割の児童が、相手の話を聴いたり、相手のことを考えて話したりできると回答しています。今年度は、協働型の重点目標を「探究し考えを発信する学びを支えるための教育活動の推進」として教育活動を行っています。探究的な学習や体験活動などを

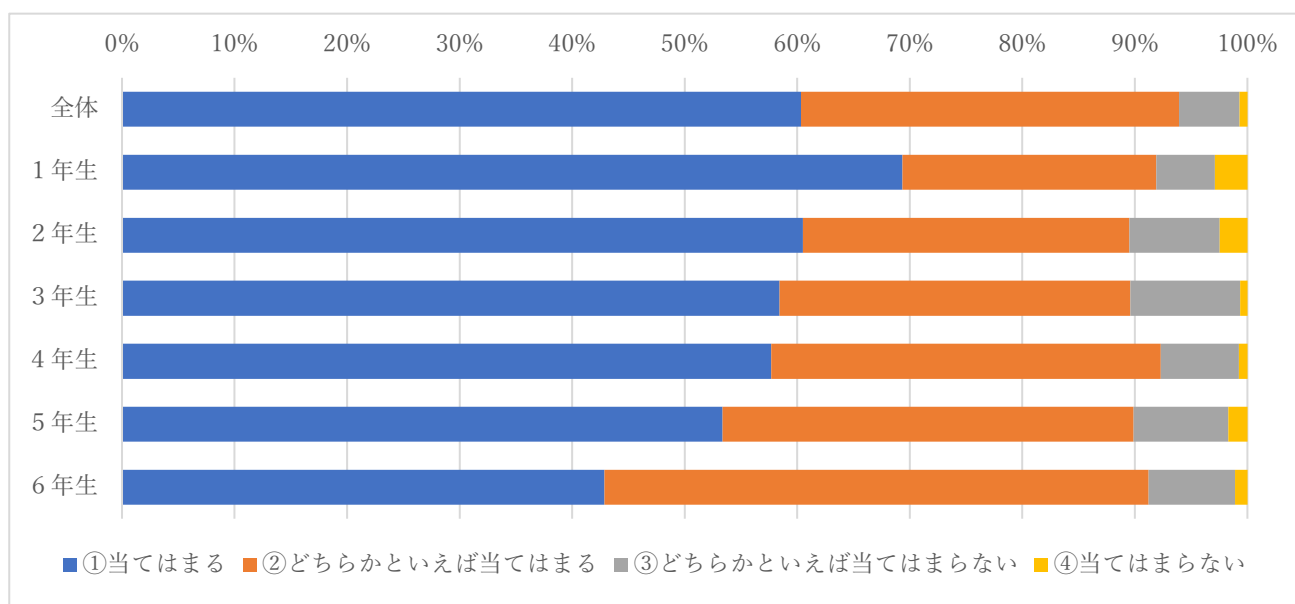
通じて、子供同士で、あるいは地域の方々等と関わりながら学ぶ「協働的な学び」の充実を図っていくことで、聴く力や話す力を育てていきたいと考えています。

【設問3】学校が楽しいと思う。

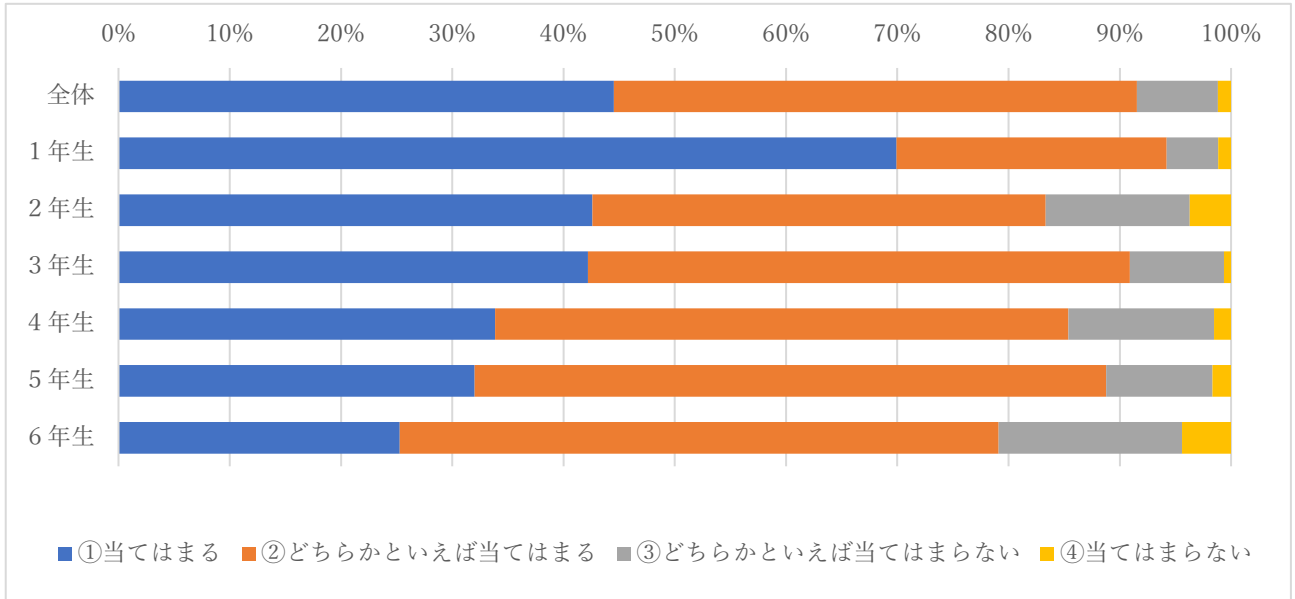


平均すると9割弱の児童が肯定的な評価となっており、友達と仲良く助け合い、楽しい学校生活を送っていることが分かります。一方で、「学校は楽しくない」と答えている児童も1割程存在しています。児童同士の好ましい関係づくりや居場所づくりを支援すると共に、楽しく分かる授業や魅力ある学校行事づくりに努め、一人一人が生き生きと学校生活を送ることができるよう努めていきます。

【設問4】あいさつができる。



【設問5】 優しい言葉をつかうようにしている。

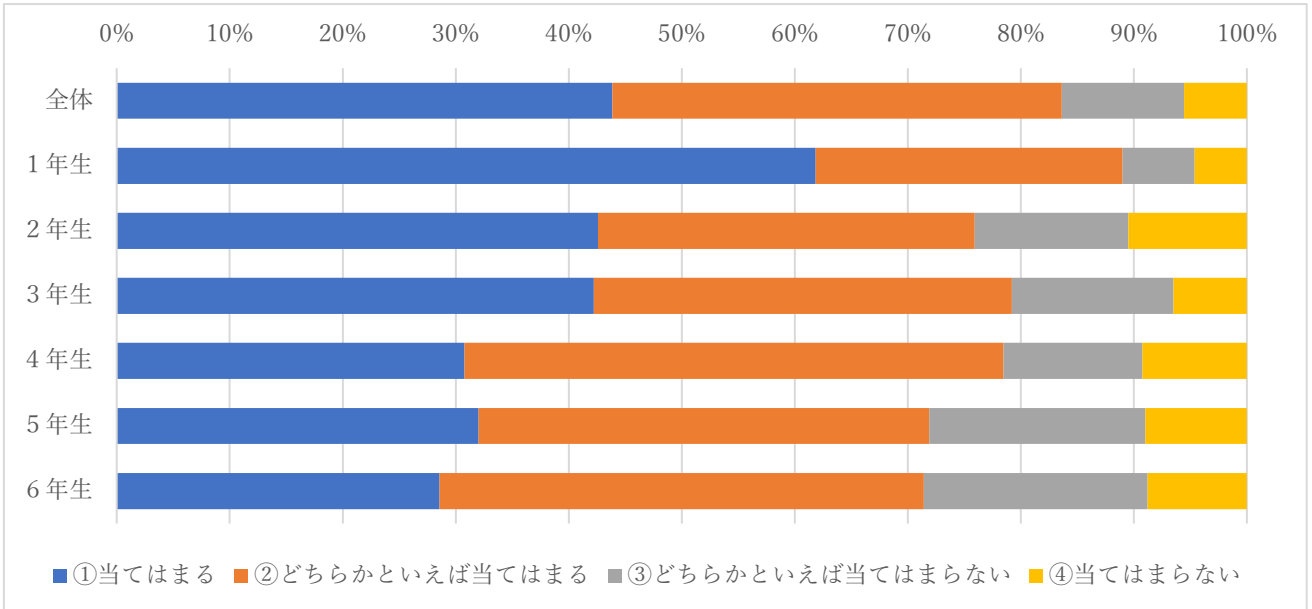


【設問4】【設問5】については、全体的に肯定的な評価となっています。

挨拶については、どの学年の児童も約9割が挨拶をしていると回答しています。本校では、「温かいコミュニケーションの育成」の手立ての一つとして、挨拶に力を入れて指導してきました。その成果が表れ、子供たちは挨拶への意識が高まってきたと思われます。

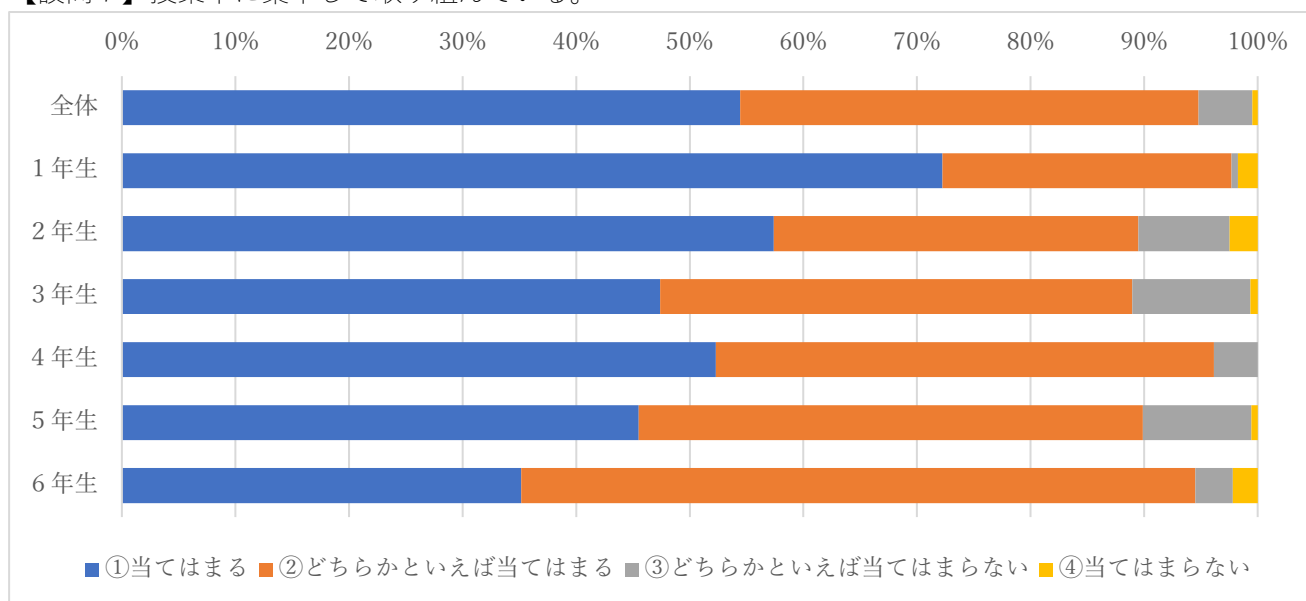
また、温かいコミュニケーションのためには、【設問1】【設問2】にもありますが、相手の気持ちを考えて、対話することが大切であると考えています。優しい言葉つかいについても、挨拶と同様に継続して取り組んでいきたいと考えています。

【設問6】 困った事や悩み事があったとき、家族や友達、先生などに相談している。



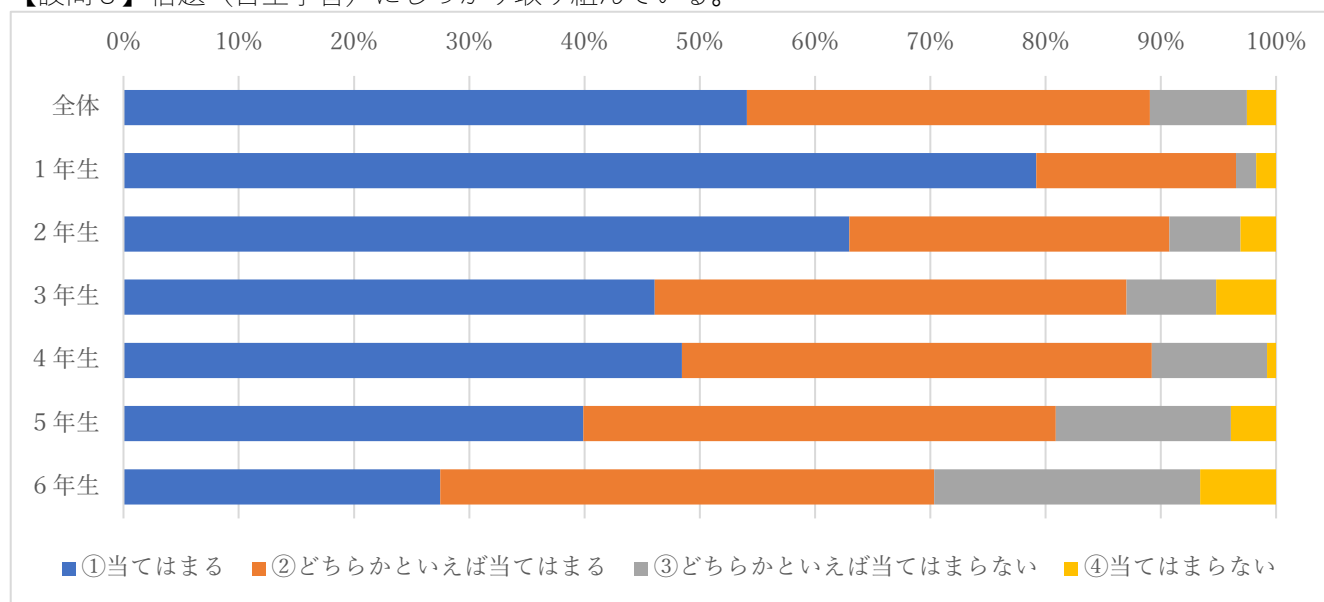
約8割の児童が、困りごとや悩みごとがあったときに家族や友達、先生などに相談していると回答しています。保護者アンケートでは9割が相談していると回答していることから、若干の差異が見られます。また、学年が上がるごとに、相談していないと回答した児童の割合が増えています。高学年になるにつれて、体も精神面も急激に変化し、悩みも複雑になってくる時期でもあります。普段から児童とレポートをとりながら、学校全体で、相談しやすい環境作りに努めていきたいと思えます。

【設問7】授業中に集中して取り組んでいる。



子供たちが授業に集中して取り組んでいる様子がうかがえます。しかし、1割ほどの児童は集中して取り組めていないと回答しています。学校では、分かる喜びや成し遂げる喜びを味わえるような授業になるように努めていきます。また、GIGA スクール環境を活用して、分かりやすく資料を提示し、友達のことを短時間で共有することにより、自分の考えを深められるように取り組んでいます。体験的な学びや経験を積み重ねていくなど、今後とも改善や工夫を重ねてまいります。

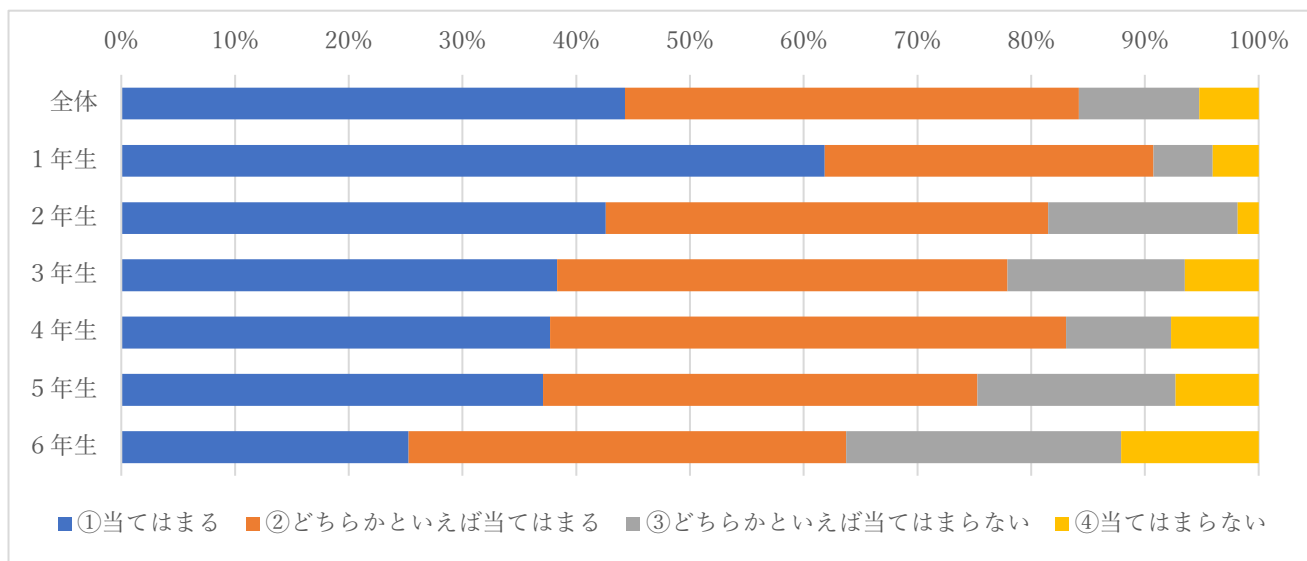
【設問8】宿題（自主学習）にしっかり取り組んでいる。



家庭学習については約9割の児童が「宿題にしっかり取り組んでいる。」という回答でしたが、保護者アンケートでは、肯定的な回答は半数強のみでした。また、学年が上がるにつれて肯定的な回答の割合が少なくなっている傾向があります。

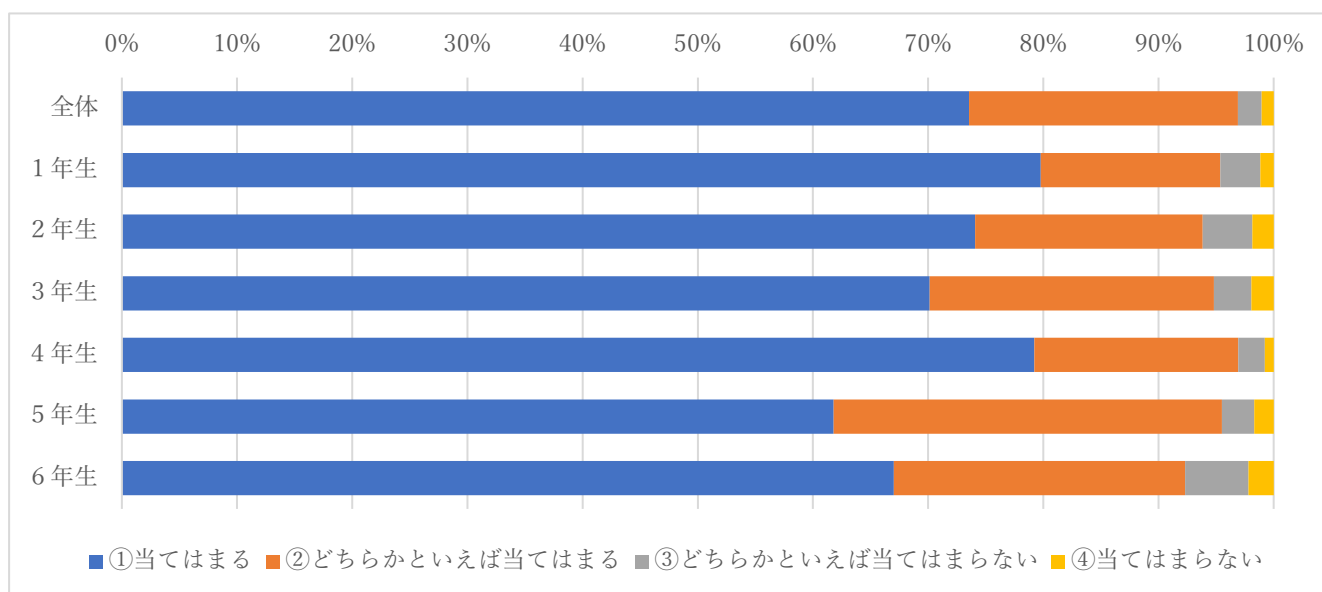
児童は、しっかり宿題に取り組んでいると思っていますが、保護者は、意欲的には取り組んでいるとは捉えていないようです。特に、Chromebook を活用した宿題や探究的な学習については、「どんな宿題をやっているのか分からない。」という保護者からの声もありましたので、学校から、取り組み方や内容について、積極的に発信していきたいと考えています。

【設問 9】「早寝，早起き，朝ご飯」に気を付けて，規則正しい生活をしている。



学年が上がるにつれて，早寝，早起き，朝ご飯」に気を付けて，規則正しい生活ができていないと回答している割合が多くなっています。ゲームや YouTube の視聴等で寝る時間が遅くなり朝起きられない等，規則正しい生活ができていないと感じている児童が多いのではないかと考えられます。学校でも，保健や家庭科，錦ワルツタイム等で子供たちへ規則正しい生活をする事の大切さを指導していきたいと思ひます。

【設問 10】安全に気を付けて，生活している。



アンケートから，元気に，安全に気を付けながら学校生活を送っている様子がうかがえます。しかし，校外の児童の様子を振り返ると，登下校中につい走ってしまい，転倒しての怪我が多く見られました。また，道路への飛び出しや公園での遊び方等の苦情や情報が多く寄せられています。その都度，学校でも子供たちへの指導や注意喚起をしてきました。

3 目標実現のための保護者、教職員の取組について

学校教育目標

たくましく しなやかに生きる 子ども

協働型学校評価の重点目標

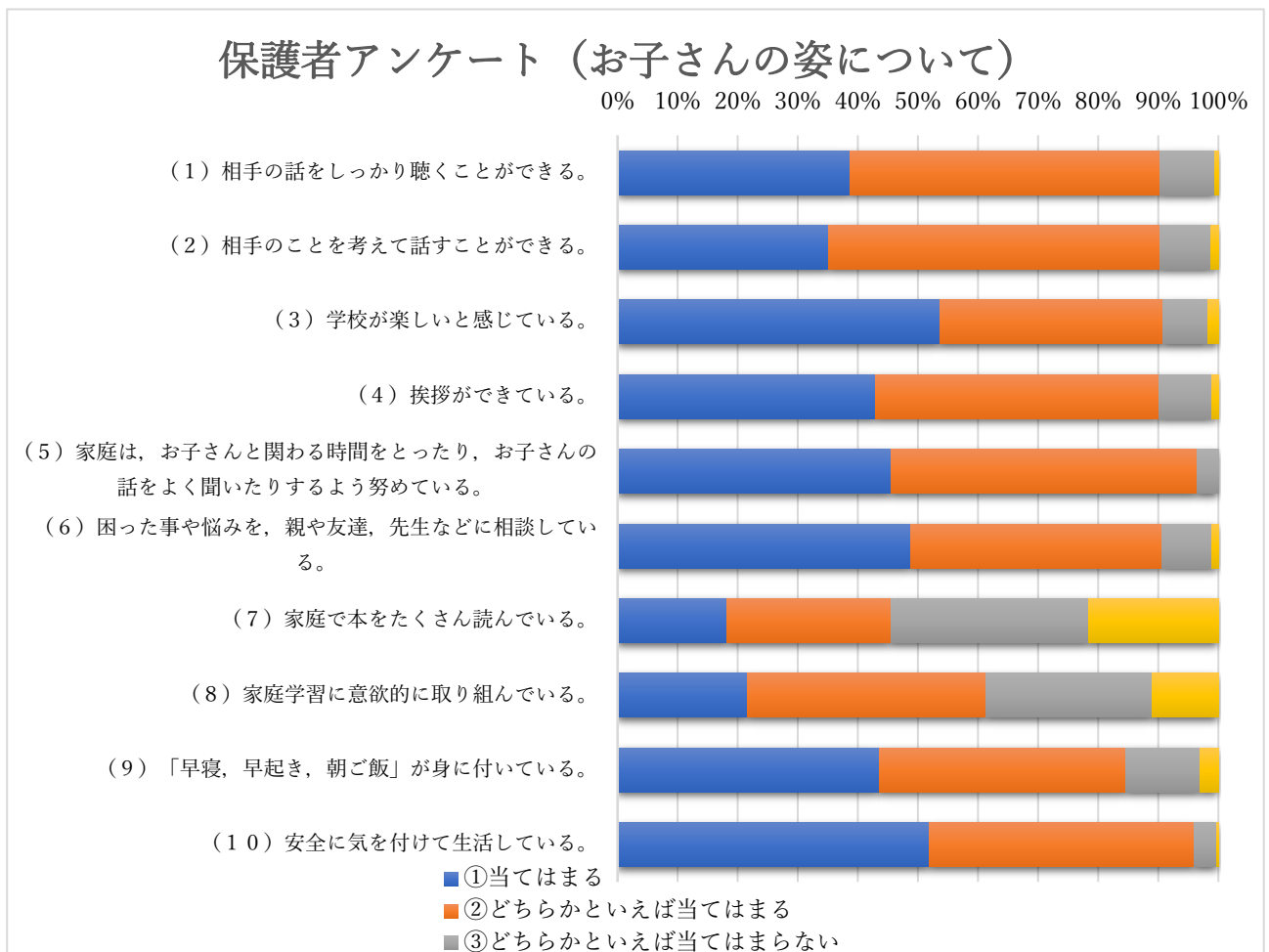
探究し考えを発信する学びを支えるための教育活動の推進
～温かいコミュニケーションができる力の育成～

新型コロナウイルス感染症対策が5類に移行したことにより、これまで制限されてきた教育活動について、見直し、より良い実施の仕方を検討してきました。今年度は、全校児童が一堂に会しての集会活動、2学年合同による体力フェスタ、全校一斉の児童会まつり、業間・昼休みの外遊びの制限解除、縦割り活動等を実施しました。授業では、対話を通して協働型の学習も積極的に行うことができました。このことにより、人と関わりながら活動する場面が増えてきています。

保護者アンケートでは、御家庭でも、お子さんと関わる時間をとって話を聞いている等お子さんとのコミュニケーションを大切にしている様子がうかがえます。学習面では、もう少し頑張ってもらいたいと感じている保護者の方が多いようです。学校では、探究的な学習として「より主体的に取り組む自律的な家庭学習の習慣化」を目指しています。学校での学習の様子や家庭学習の取り組み方について、積極的に情報を発信し、御家庭と連携して取り組んでいきたいと考えています。

今後も、保護者の皆様、地域の皆様方と協力しながら、児童が温かいコミュニケーションを築けるよう指導してまいりたいと考えています。

令和5年度 学校評価アンケート集計結果（保護者評価 回答446件）



4 学校の自己評価結果を踏まえた学校運営協議会委員の御意見

学校の自己評価に対して、令和6年3月7日（木）に行われた学校運営協議会において、委員の皆様から御意見をいただきました。以下に、主なものを御紹介いたします。

- 今年度も、「GIGA スクール勉強会」「探究プレゼン大会」「防災ゲーム大会」「トモスク熟議（小学生 Ver.）」等、子供たちの思いを受け止め、発信する場を提供してきた。特に「トモスク熟議（小学生 Ver.）」は、5年生の代表児童（希望者）と学校運営協議会の委員とが、5つのテーマに沿って熟議を行った。4月から最高学年となり学校をリードする5年生の子供たちが、どんな学校にしていきたいか、どんなことをやってみたいかという目標や希望を学校運営協議会の委員に熱く語っていた姿が印象的だった。トモスク熟議（小学生 Ver.）は、初の試みであったが、子供たちとこれからの学校や錦ヶ丘について語り合えたことがとても良かった。子供たちからは、「また、熟議をしたい。」と言う声も上がった。今後も、このように子供たちの思いを発信する場をどんどん提供していきたい。
- 保護者アンケートの回答者数が少ないことが気になる。来年度は、保護者の連絡ツールがまなびポケットになることもあり、うまく活用しながら、回答率を上げる工夫をしていくと良い。

5 令和6年度 錦ヶ丘小学校 教育活動改善（案）について

委員の皆様から御意見をいただきましたこと等も踏まえ、「令和6年度に向けての教育活動改善（案）」をお示しします。新型コロナウイルス感染症対策が緩和されたこともあり、令和6年度はさらに良い教育活動ができるよう改善、検討していきます。保護者の皆様、地域の皆様の御理解と御協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

〈 改善の目的 〉

- 「温かいコミュニケーションができる力の育成」のための学校教育活動を充実させるため。
- 新型コロナウイルス感染症対策が緩和されたことを踏まえ、学校教育活動をより充実させるため。

〈 改善の具体について 〉

【令和6年度の重点目標】

温かいコミュニケーションができる力の育成
～聴くこと・話すこと・かかわること～

- 学校・保護者・地域との連携の強化
 - ・ 学校運営協議会（トモスク）を中心に、PTA、学校支援地域本部（めですこスクール）等との連携を深めながら、「自分づくり教育の充実」「防災教育の充実」「情報教育の充実」の3本の柱で教育活動の充実を図っていきます。
- 温かいコミュニケーションを大切に
 - ・ 来年度も温かいコミュニケーションを大切にしながら、仙台市全体で課題となっている、いじめや不登校などに対応していきます。
 - ・ 一人一人の良さや多様性を認め合い、自分と違う考えとの出会いを楽しみ、仲間や命を大切にする教育の充実を図り、笑顔があふれる学校生活になるようにしていきます。

○ 学校行事や教育活動の充実について

- ・ 今年度は、新型コロナウイルス感染症対策が緩和されたことにより、内容や形態を見直しながら、段階的に実施してきました。「体力フェスタ」につきましては、今年度は低・中・高学年の2学年ごとと平日に実施いたしました。来年度はすでに年間行事予定表でお知らせの通り、**全校一斉の運動会を土曜日に開催**する予定です。なお、「学びフェスタ」については、今年度同様、教科等で子供たちが学んだ成果を発表し、互いの努力を認め合ったり、自他の良さを見付け合ったりする機会として、11月～12月初旬頃、学年ごとに発表の日時を設定します。
- ・ **異なる学年同士の交流活動**を積極的に取り入れ、他者とのかかわることで、思いやりの心や自己有用感を育てていきます。また、生活科や総合的な学習の時間では、地域の方々等との交流学习を充実させ、子供たちが、より実感を持って学ぶことができるようにしていきたいと考えています。
- ・ 来年度から、**全校一斉の昼清掃**に取り組む予定です。全校で同じ時間に清掃に取り組むことで、友達や教職員、他の学年とも関わりを持ちながら、清掃に向かう気持ちを育てていきたいと考えています。昼清掃の取組により、**日課表が変更**になります。昼清掃を行ってから昼休みとその後の授業を行いますので、5・6校時の授業時間の終了時刻が20分ほど遅くなります。しかし、放課後清掃はなくなりますので、子供たちは授業終了後、一斉に下校となります。

○ 御家庭との連携について

- ・ 児童の教育活動において、家庭と学校が連携して、児童に対応することは大切なことだと考えております。家庭・学校・児童の3者が、学習面や生活面のルールを共通理解できるよう「**錦スタンダード**」というプリントを来年度に向けて作成中です。Chromebookの使い方等を含む学習面や学校生活全般におけるルールが一目で見て、分かるように提示してあるものです。配付時に改めて御説明いたします。

○ クラウド環境の効果的な活用について

- ・ 本校では引き続き、子供たちのChromebookの活用を積極的に進めていきます。
- ・ Chromebookを活用することで、子供たちの学びの場は教室だけにとどまらず、家庭にも広がります。授業で学んだことを家庭学習で整理・分析したり、家庭学習で調べたことを生かして教室で友達と議論したりと、大きく様変わりしています。子供たち自身が情報活用能力を発揮し、学びに向かう気持ちを高め、自律的な学習態度を形成していくことができるように指導の工夫をしています。
- ・ Chromebookを活用する際のルールやマナーについては、学校でも指導しますが、これまで同様、御家庭での見守りもお願いします。
- ・ 保護者の皆様との連絡ツールとして来年度から全市共通で「**まなびポケット**」を活用することになりました。保護者の皆様には、登録等の事前準備に御協力いただきまして、ありがとうございます。連絡ツールは変わりますが、これまで同様に、学校だよりや学年だよりについては、オンライン配信をメインにするなどしていきます。また、欠席連絡も「まなびポケット」で御連絡いただきますようよろしくお願いいたします。

<参考資料>

保護者の皆様からいただいた御意見を要約しました。

(今年度の重点目標(「対話(聴く・話す・かかわる)＝温かいコミュニケーションができる力の育成」)について、工夫した働き掛け等)

1. 子どもとの会話を重視
帰宅後やお風呂、食事の時間に子どもの一日の出来事や感情を共有し、会話の時間を大切にしている。
2. 1対1での関わりを意識
兄弟がいる家庭でも、一人ひとりと個別に時間を過ごし、個々の話を聞くことに重点を置いている。
3. ポジティブなコミュニケーションの奨励
下品な言葉の避け方、相手の視点を考慮した会話、思いやりを持つ行動を教えている。
4. 挨拶や基本的な社会的行動の教育
日常の挨拶や社会的マナーの重要性を子どもに教え、模範となる行動を示している。
5. 食事の時の家族の会話を重視
食事の時にテレビを消し、家族全員で会話を楽しむ時間を作っている。
6. 親子でのプラスのコミュニケーション
子どもが話したいときは、親が手を止めて話を聞くように心がけている。
7. 学校や友達との関係に関する話を聞く
学校での出来事、友達との関わりについて興味を持って聞き、相談に乗っている。
8. 共有活動や趣味のサポート
子どもの趣味や興味に関わり、共に活動する時間を持っている。
9. 自立と問題解決能力の促進
困った時には自分で考えさせるように指導し、選択肢を提供している。
10. 日々のスキンシップと心のサポート
抱きしめる、スキンシップを取りながら会話することで、子どもが安心して話せる環境を作っている。